

# 分苑たより

## なごみ

大本  
名古屋分苑

### 分苑長

#### 春季大祭 挨拶

本日は春季大祭、並びに祖  
霊合同慰霊祭、誠ににおめで  
とう御座います。春のうら  
らかな季節のなか、清々し  
い祭典が行われましたこと、  
心よりお慶び申し上げます。  
又、八雲琴の奉納も、普段の  
お稽古の成果により、素晴  
らしい演奏で心清まるもの  
でした。



分苑玄関前に咲く  
満天星(どうだん)つつじ

本日は新霊ご遺族の方々  
にご参拝いただき、誠に有  
難うございます。新霊様、祖  
霊様も大変お喜びになって  
おられることと思います。

この度は、新型コロナの  
感染拡大により、前田特派  
宣伝使の講話が中止となり、  
参拝者も限られた人で行う  
こととなりましたが、感染  
力が強く、重症化率も高い  
変異ウイルスの感染状況を  
思う時、今後益々厳しい状  
況となっていくことが予想  
されますので、皆様には粘  
り強く万全の感染予防対策  
を行っていただきますよう  
願っております。

国祖国常立尊の大神様は、  
三千世界の立替え立直しを  
して、みろくの世を創ると  
宣言されておりますが、最  
も大御心を砕かれていますこ  
とは、人の心を改心させる  
ことだと思えます。大三災、

小三災で人の心を改心させ  
ることが出来るのであれば、  
これほどたやすいことではな  
い、人の心はこんなことで  
は改心させることはできな  
いと言われており、大本神  
愉には最初から最後まで一  
貫して、改心してください。こ  
よと警告されています。こ  
れ程までに私達人類のこと  
をご守護され、救いを願っ  
ておられる大神様の御心を  
思うとき、少しでも大神様  
の御心にかなうようになら  
ねば、大神様に対し本当に  
申し訳がないような気が致  
します。

一人ひとりの心が神心に  
なったとき、始めてみろく  
の世が来るのだと思えます。  
聖師さまは『大本は、みろく  
の世の型となり、鏡となり、  
中核となり、さきがけとな  
る使命をもって生まれたも  
のである』  
とお示しいただいており、  
私たち大本信徒は一日も早  
く改心して、まずは自分自  
身がみろくの世にかなう人

間になり、大神様のご神業  
の一端でもお役に立てるよ  
う、努力していかねばなら  
ないと思えます。

聖師さまは『人間は平素  
よりその身魂を清め、善を  
いい、善のために善を行い、  
かつ知恵と証覚とを得てお  
かなくてはならないもので  
ある。』『天国団体の最も富  
めるものは、現界にあるう  
ちに、よく神を理解し、愛の  
ために愛をなし、善のため  
に善をなし、真のために真  
を行い、自利心を捨て、そう  
して神の国の建設のために  
心をつくし身をつくし、忠  
実なる神の下僕となり、か  
つまた現界において充分に  
活動をし、その余財を教会  
のために捧げ、神の栄えと  
道の拡張にのみ心身を傾注  
したる善徳者が、いわゆる  
天国の富者であります。』と  
お示しいただいており、私  
達は日々の『心・言葉・行い』  
を改め、身魂磨きをするこ  
とが大切だと思えます。  
本日はご参拝いただきまし

て、誠に有難う御座います。

### 行事報告

● 月始祭

四月三日(土)

- 参拝者 十七名
- 齋主 妹尾 正治
- 祭員 青山 将士
- 進行 伊藤 久仁男



旬のタケノコとフキがお供えされた



● 春季大祭

● 春季祖霊合同慰霊祭

四月十八日(日)、春季大祭・春季祖霊合同慰霊祭が小林清人執行委員長 小鹿正光・小鹿美千代副執行委員長の下、厳粛に執行され、祭典後には八雲琴、菅搔曲(すががきふり)が奉納された。

参加者三十二名

- 斎主 瓜生 秀明
  - 祭員 石原 松生
  - 祭員 飯田 和彦
  - 祭員 堀 健太郎
  - 祭員 堀 健太郎
  - 祭員 久野 武男
  - 祭員 日比 達朗
  - 祭員 伊藤久仁男
  - 裏方 高嶋 善雄
  - 祭員 飯田 直美
  - 祭員 澤田 淳
  - 祭員 長谷川美枝
  - 祭員 佐古 美鈴
  - 祭員 岡田 幸子
  - 祭員 青山 将士
- コロナ感染防止のため、祭典関係者、機関代表者、遺族代表者のみの参加となった。



☆前日は十時から直心会・準備委員により分苑内の清掃・祭典準備が行われた。



● 草引き献劳作業

津島支部

四月十一日(日)支部月次祭終了後、現地の海津市に移動して十二時半分より十五時まで作業を行った。

地中に張りめぐるヨシの根を除去するのに大変苦労した。皆で懸命に作業を行い予定の範囲を完了することができた。

植樹した松は枯れることなく順調に育っており、今後の成長が期待される。

参加者

- 妹尾正治 渡邊政幸
- 飯田和彦 日比達朗
- 瓜生秀明 報告

忍び草

若葉支部

宣伝使 浦木なみ子 毘女

享年 九十九歳

令和三年 三月三十一日

帰幽

謹んで哀悼の意を表します

☆行事予定

五月

五日(水)

みろく大祭遥拝祭

午前十時半より

十六日(日)

月次祭

午前十時半より

六月

五日(土)

月始祭

午後一時半より

